

# 難治性黄斑浮腫に対するオキシグルタチオン網膜下注入の効果と安全性に関する研究について

網膜の中で物を見る視細胞がたくさん集まっているところは黄斑と呼ばれ、視力が良い眼はこの黄斑部に異常がないことが重要です。糖尿病網膜症を含む様々な眼疾患で黄斑部にむくみ（浮腫）が生じることがあり、黄斑浮腫が続くと一般に視力低下をきたします。視力低下を呈する黄斑浮腫に対しては、抗血管内皮増殖因子(vascular endothelial growth factor, VEGF)阻害剤の硝子体内注射やステロイドの局所注射、硝子体手術、等の治療方法がありますがこれらの治療に抵抗する例も多く、新しい治療方法の開発が望まれています。この研究では従来の治療に抵抗する黄斑浮腫に対してオキシグルタチオン網膜下注入を併用した硝子体手術の効果と安全性を評価することを目的としており研究的意味合いを含んでいます。神戸大学ではこのような研究を行う場合には、医学倫理委員会で審査し、その研究内容について医学的な面

だけではなく、患者さんの人権、安全および福祉に対する配慮も十分検討し、問題が無いと考えられた研究だけ、神戸大学大学院医学研究科長の許可を得て行うことにしています（本研究も医学倫理委員会で承認されています）。

この研究の成果によって、難治性黄斑浮腫の治療成績が向上することが期待されます。また、治療後の黄斑形態の変化を経時的に観察することで、これまでに知られていなかった黄斑浮腫の病態が解明され、黄斑浮腫に対する新しい治療法の開発に寄与することも期待されますので興味のある方はお気軽に担当医師にご相談ください。

責任医師 楠原 仙太郎